

「未来を強くする子育てプロジェクト」では、
「子育て支援活動の表彰」と
「女性研究者への支援」の
2つの公募事業を柱として、
すこやかな子育てと
夢のある未来づくりを応援しています。

子育て支援活動の表彰

より良い子育て環境づくりに取り組む個人・団体を募集します。各地域の参考になる特徴的な子育て支援活動を社会に広く紹介し、他地域への普及を促すことで、子育て環境を整備し、子育て不安を払拭することを目的としています。



女性研究者への支援

育児のため研究の継続が困難となっている女性研究者および、育児を行いながら研究を続けている女性研究者が、研究環境や生活環境を維持・継続するための助成金を支給します。人文・社会科学分野における萌芽的な研究の発展に期待する助成です。

目次

■ 「未来を強くする子育てプロジェクト」のご紹介	2
■ ごあいさつ	3
■ 講評	4
■ 子育て支援活動の表彰	6
■ 女性研究者への支援	15

橋本 雅博

住友生命保険相互会社
取締役 代表執行役社長



子どもたちは「未来を支える社会の宝」です。次の世代を担う子どもたちの明るい笑顔は私たちが「強く生きる」ための明日への力とになっていくものです。住友生命は、社会の一員として役割と責任を認識し、より良い未来を作っていくために、生命保険と関わり合いの深い社会的課題への取組みとして、「子育て支援」に取り組んでまいりました。そのひとつである「未来を強くする子育てプロジェクト」は、住友生命の創業100周年記念事業として、2007年より開始し、今回で11回目を迎えました。

子育て支援に取り組まれる皆さまは、地域・各家庭の課題に真摯に向き合い、時代や求められるニーズに応じたアプローチで、懸命に取り組みを続けておられます。また、女性研究者

の皆さまは、子育てとそれぞれに意義深く多様なテーマの研究の両立に熱意を持って日々取り組まれています。

受賞事例を中心にさまざまな子育ての可能性を広く社会に伝え、社会全体で見守り育てていく環境づくりに向けて、住友生命はこれからも支援を続けてまいりたいと考えております。

また、住友生命では、今年度創業110周年を迎え、新たな社会貢献事業として、親子で健康増進に取り組む「スマセイバイタリティアクション」を始動いたしました。この新たな事業では、トップアスリートとともに親子で運動することで健康増進を図り、家族の絆も深めていただきたいと考えております。住友生命は、これからも健康で心豊かな社会づくりに向けて、さまざまな活動に取り組んでまいります。



選考結果 第11回「未来を強くする子育てプロジェクト」では、2017年7月から9月までの間、「子育て支援活動の表彰」「女性研究者への支援」の2部門の募集をいたしました。「子育て支援活動の表彰」には231組、「女性研究者への支援」には140名のご応募をいただきました。選考委員による審査を経て各部門の受賞者が決定しました。

子育て支援活動の表彰

- 文部科学大臣賞／スマセイ未来大賞の1組に授与
- 厚生労働大臣賞／スマセイ未来大賞の1組に授与
- スマセイ未来大賞／2組
- スマセイ未来賞／10組

表彰数
12 組
応募数 231 組

女性研究者への支援

- スマセイ女性研究者奨励賞／10名

表彰数
10 名
応募数 140 名

講 評



[選考委員長]

汐見 稔幸

白梅学園大学学長、
東京大学名誉教授

子育て支援活動を取り巻く時代や環境の変化を感じる選考になりました。子育て支援活動は、顕在するニーズに手探りで応えることから始まり、経験から模索し、学びながら洗練されてきたものです。今回の選考では、行政・市民ともにその意義を理解し、協力など関わり方が成熟してきたと強く感じられました。支援分野も多種多様で、老舗はもちろん、規模は小さくとも精力的に取り組むなどさまざまな団体が応募してくれています。これからも温かく素晴らしい活動が数多く誕生することが期待されます。

また、世界中で多様な研究テーマに奮闘されている女性研究者から数多く応募いただきました。社会が持続していくために、幅広い事柄を学問の対象とし、新たな知見を人類共通の知的財産として蓄えることは非常に大切です。そのなかにおいて最先端の研究に努力する女性研究者の今後の大いなる活躍を期待したいと思います。



[選考委員]

大日向 雅美

恵泉女子学園大学学長

人文・社会科学分野の研究は、一朝一夕にはその成果が目に見えないことも多く、大変な根気を必要とします。それは、子育てにおいても共通する特徴です。研究と子育ての両立では、ともに根気を要するなかでいかにそのバランスをとるか、また周囲のサポートを上手に活用するなどの工夫が求められます。課題を敏感に捉え、解決に向けて知性や力を発揮する努力は研究領域だけでなく、私たち人間の営みのすべてに通じることといえましょう。多岐にわたって、誰も着眼しなかったテーマに果敢に挑戦する、女性の強さも改めて思いました。この選考を通じて、毎年貴重な学びをさせていただいていることに感謝しています。





[選考委員]

奥山 千鶴子

特定非営利活動法人
びーのびーの理事長

子育て支援活動の表彰において応募総数が過去最多を数えたことを通じ、子育て支援の一層の必要性とともに、本プロジェクトに寄せる期待の大きさを改めて強く感じました。今回の応募のなかには、学齢期以上の子どもたちを対象にした活動も数多くありました。乳幼児期に潜在していた課題が学齢期に顕在化し、それが家庭では抱えきれなくなり、地域の方々が支援に乗り出しているといった印象も受けました。

地域の課題・ニーズがより複雑化している今、そうした実態がクローズアップされることで支援の輪が広がってほしいと切に願っています。本プロジェクトで地道に取り組みされている草の根的な活動を支援する意義を再確認する選考となりました。



[選考委員]

米田 佐知子

子どもの未来サポートオフィス代表

子育て支援制度の整備が急速に進められ、各課題に対応したサービスが誕生する一方で、同じニーズを抱える方々のつながり、支え合いが希薄になりつつあるようにも感じます。そうした現状にあって、課題に気づき、解決にいち早く取り組んでいる活動が選考では多く見られ、大変心強く感じました。また、従来とは異なる新たなアプローチを試みるなど、課題解決に向けた方法や仕組みが時代とともに進化し続けていることを実感しました。受賞を通じて、皆さまの素晴らしい活動がより広く知られ、モデルとなって広がっていくことを願い、応援のメッセージを込めて受賞団体を選ばせていただきました。



[選考委員]

古河 久人

住友生命保険相互会社
執行役常務

子育て支援活動の表彰部門では、過去最多のご応募をいただき、誠にありがとうございます。子育てを取り巻く社会的課題に果敢に挑まれる活動が多くみられ、子育て支援の一層の拡がりを感じます。また、女性研究者の支援部門では、研究者を取り巻く環境が厳しさを増すなかで、子育てとの両立に奮闘しながら、国内外でさまざまな研究テーマに向き合う皆さまの熱意に心打たれる思いがいたします。

今回第11回目を迎え、複数回ご応募いただく方、新たにご応募いただく方もそれぞれ多くみられ、本プロジェクトにけるご期待の大きさを感じる選考となりました。本プロジェクトでの支援が、団体や女性研究者の皆さまの一層のご活躍につながることを願っております。

受賞団体のご紹介



スミセイ未来大賞 文部科学大臣賞

「非行」と向き合う親たちの会
(通称:あめあがりの会)

P. 8



スミセイ未来大賞 厚生労働大臣賞

認定NPO法人 ^{キャプナ} CAPNA

P. 9



スミセイ未来賞

NPO法人 オルタナティブビレッジ

P. 10



スミセイ未来賞

かるがもの会

P. 10



スミセイ未来賞

特定非営利活動法人
キャリア教育研究所 ドリームゲート

P. 11



スミセイ未来賞

子ども夢フォーラム

P. 11



スミセイ未来賞
「生」教育助産師グループ^{オハナ}OHANA

P.12



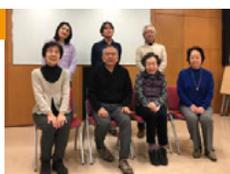
スミセイ未来賞
特定非営利活動法人 チームふくしま

P.12



スミセイ未来賞
童楽寺ホーム

P.13



スミセイ未来賞
特定非営利活動法人 なかのドリーム

P.13



スミセイ未来賞
星の会（不登校を考える親の会）

P.14



スミセイ未来賞
特定非営利活動法人 レイボーチェ

P.14

「非行」と向き合う親たちの会 (通称:あめあがりの会)

東京都新宿区 代表者:春野 すみれ

活動開始:1996年11月 スタッフ:35名
〒169-0073 東京都新宿区百人町1-17-14 コーポババ21
TEL.03-5348-7265



**思いがけないわが子の「非行」の悩みを、親同士が集まって
実体験を語り合い、ともに支え合う活動を行っています。**

同じ悩みを抱える親同士の情報交換の場

わが子の「非行」に直面したことをきっかけに、同じ悩みを抱える人たちが集まれる場をつくりたいと、この会を立ち上げました。活動開始当初は不安もありましたが、孤立しつつも懸命に困難と向き合う人たちが全国にたくさんいることを知り、「こんな場所がほしかった」という切実な声が、活動を続ける大きな推進力になりました。4名でスタートした活動ですが、現在は650名の会員が支え合い学び合っています。

他の参加者の声を聞き、前向きな気持ちに

都内および近郊で毎月「例会」を開催しています。そこでは、参加者同士が自らの体験や悩みを、成功談も失敗談も率直に語り合います。つらい時期を乗り越えた体験や子どもとの関係を改善するための秘訣などは、実体験に基づくだけに、悩みを抱える親に大きな励ましや気づきをもたらしています。また、例会に来られない人たちとも心がつながるように、会報「あめあがり通信」を発行してさまざまな情報を伝えています。

「非行」は一家庭ではなく地域社会の課題

成長の過程で子どもは社会でのさまざまな困難や納得できない出来事に遭遇します。しかし、子どもの「非行」はすべてが「家庭の問題」と捉えられがちで、親は悩みを抱えていてもSOSを発信できず孤立感を深めてしまう傾向にあります。私たちは、子どもを巡るさまざまな問題を広く発信し続けることで、子どもやその家族を協力して支えられる温かい地域社会になることを願っています。



受賞の
言葉

結成から21年、地道な活動に光を当ててくださり、続けてよかったと実感しています。どの子も幸せになりたいのに、一度レールから外れると、今の社会はやり直すことが難しいようです。親がともに支え合うことで、「孤独」から解放されて、力を得ていく姿をたくさん見てきました。これからも、丁寧に歩んでまいります。

認定NPO法人 キャプナ CAPNA

愛知県名古屋市 代表者：萬屋 育子

活動開始：1995年10月 スタッフ：約80名
〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内1-4-404
TEL.052-232-2880 FAX.052-232-2882



**虐待防止に関わる幅広い子育て支援活動を、
行政や専門職と協力しながら取り組んでいます。**

児童虐待の問題にいち早く注目

子どもの虐待が社会問題として注目され始めた1990年代に、児童養護施設代表、児童福祉司、弁護士などさまざまな立場で子どもの問題に関わるメンバーが中心となって立ち上げた団体です。愛知県では児童相談所への相談件数が増加傾向にあり、子育てに対して不安や悩みを抱える養育者も少なくありません。多彩なメンバーで協力・連携しながら児童虐待防止活動に精力的に取り組んでいます。

電話相談を支援の入り口として活用

団体設立当初から継続して行っている電話相談「CAPNAホットライン」は、団体の中心となる活動であり、現在はメール相談にも対応しています。虐待のほか妊娠、出産、子育てに関するさまざまな悩みや苦しみを抱えた方から、日々相談が寄せられます。困難を抱える家庭への支援の入り口として、電話・メール相談が果たす役割はとても大きいと感じています。

新たな取組みにも力を入れています

電話相談に加え、虐待死に関するデータブックの発行やDV被害者のためのシェルター運営など、活動の幅を広げてきました。近年、新生児の特別養子縁組の普及や、安全委員会方式による施設内での虐待防止にも力を入れています。こうした地道な相談・啓発活動が一定の成果をあげ、行政や世間の虐待に対する意識の向上に貢献できたことをうれしく思います。



受賞の
言葉

これまでの地道な活動を認めていただき、ありがとうございました。今後も「子どもたちの笑顔のために」子どもの虐待防止・子育て支援・赤ちゃん縁組の推進・養護施設での暴力防止プログラム・DVシェルターでの支援など、地域や行政と協働して活動を続けたいと願っております。

NPO法人 オルタナティブビレッジ

兵庫県神戸市 代表者: 山口 寛人

活動開始: 2011年1月 スタッフ: 5名
〒651-1603 兵庫県神戸市北区淡河町淡河1448
TEL.090-3972-7305



**古民家を改装した「サトノマ」を拠点に、
家族向けの農業・里山体験プログラムを実施しています。**

子どもも大人も楽しめる農業・里山体験を、一年の四季を感じてもらうための年間プログラムとして提供しています。コミュニティで支え合いながら、自然に囲まれて子育てができる環境を理想とする私たちの活動には、障がい者も健常者も分け隔てなく誰でも参加することができます。さまざまな可能性を秘めた「農」を通じて、食や環境についてを学びながら、持続可能なコミュニティづくりを確立することが目標です。

受賞の 言葉

コミュニティが希薄化していくこれからの社会において、教育や農を通じて、海外の先進的な事例も参考にしながらオルタナティブ(既存のものに代わる新しい)なコミュニティ創りに励んできました。まだ道半ばではありますが、賞をいただいたことに感謝しながら、今後も持続可能な活動になるよう精進していきたいと思えます。

かるがもの会

新潟県新潟市 代表者: 石田 浩子

活動開始: 1991年7月 スタッフ: 23名
かるがもの会事務局: karugamo@lifejp.net
ホームページ: <http://karugamo.lifejp.net>



**全国の視覚障がいを持つ親やその家族がつながり、
子育てや暮らしの悩みを共有・解決できる場を提供しています。**

多くの困難を抱える視覚障がいを持つ親同士が支え合い、孤立と不安を脱して楽しく子育てしようと「かるがもの会」は生まれました。新聞による会員への情報発信からはじめ、IT時代の今、電話会議システムやメーリングリストを利用し、全国の会員がリアルタイムで互いの悩み、思いを発し、受け止め、問題解決に努めています。また、長年続けている年に1回の総会では、全国の親子がそのつながりをより確かなものにしていきます。

受賞の 言葉

受賞の一報をいただき、喜びとともに重責を担う身の引き締まる思いでした。念願だった26年間の活動をまとめた本の出版が実現します。大変感謝しております。子育て中の親にとどまらず、結婚、子育てに向かう世代、その親御さん、福祉や医療・学校関係者、一人でも多くの方に、私たちの子育てやつながりを知ってもらい、理解と希望になるよう努めていきます。

特定非営利活動法人 キャリア教育研究所 ドリームゲート

静岡県磐田市 代表者：山浦 こずえ

活動開始：2013年2月 スタッフ：正会員16名（うちコアメンバー6名）
〒438-0078 静岡県磐田市中泉1214-16 ホームタウンいわた内
TEL.080-9118-5794



**「お仕事体験わくわくワーク」をはじめ、
地域の小学生を対象にしたユニークなキャリア教育プログラムを実施しています。**

将来社会に出たときに必要な「社会人基礎力」を身につけ、自分なりの「幸せな大人」像を考えてもらうキャリア教育プログラムを、地域と連携しながら行っています。小学校高学年を対象にした「お仕事体験わくわくワーク」もその一つです。楽しいだけの職業体験に留まらず、事前研修やPRポスターの制作などを通じて、仕事の魅力や本質を子どもたち自ら考え、学べる点が大きな特徴です。「夏休み寺子屋」や中学生・高校生の授業も展開中です。

受賞の言葉

私たちが願い目指すのは「幸せな大人」を育てること。まさに、未来を強くするため、子どもたちの生まれ持った力を活かせるよう工夫して活動しています。わくわくする仕掛け、嫌でもやるべきことはやる、自ら考え、動き、やり遂げる達成感…。それに関わる大人も考えさせられたり、襟を正したり、相乗効果が生まれる活動をこれからも行っていきます。

子ども夢フォーラム

石川県金沢市 代表者：高木 真理子

活動開始：1999年8月 スタッフ：45名
〒921-8101 石川県金沢市法島町11-8 いしかわ子ども交流センター2階
TEL/FAX.076-214-5680



**子ども専用電話を通じて子どもたちの気持ちに寄り添い、
そこで得た気づきを社会に向けて発信しています。**

子どもたちを取り巻く問題が複雑に絡み合い、深刻化する現在、自分の感情を整理できずにいる子どもたちが数多くいます。「チャイルドライン」は子どもの声を受けとめる専用電話のことです。子どもの声を受けとめる「受け手」は、子どもたちの話に耳を傾け、その気持ちに寄り添います。そして、子どもたちが自分の抱える問題に自分自身で答えを導き出せるよう、子どものペースとともに考え、応援するスタンスを大切にしています。

受賞の言葉

このたびは表彰していただき、うれしい気持ちでいっぱいです。子どもの声に寄り添うという成果の見えない活動に目を留めてくださったことに心より感謝申し上げます。受け手ボランティアさんやこれまで私たちの活動を支えてくださった多くの方々のご縁のおかげです。受賞を機に、これからも地道な活動を継続していきたいと思っております。

「生」教育助産師グループOHANA オハナ

愛知県一宮市 代表者:坂井 桃子

活動開始:2013年2月 スタッフ:10名
〒491-0931 愛知県一宮市大和町馬引郷東1-12
TEL.090-9747-7821



学校や公共施設に出張し、助産師の視点から子どもたちやその親に命の大切さを伝える活動を行っています。

「いのちの出張授業」では「性」だけでなく「生」教育の視点も盛り込み、出産や命の尊さを伝えることで、子どもたちの自己肯定感の向上につなげています。こうした活動は口コミで広がり、多くの学校から授業の開催依頼をいただいています。多彩な専門分野の助産師が強みを活かして、各学校の状況や要望に即した多様なテーマの授業に対応しており、私たちの活動の大きな特徴になっています。

受賞の言葉

日々流れる子どもたちを取りまく悲しいニュースが一つでも減ってほしい、との思いで5年前に活動を始めました。助産師の英訳の語源は『寄り添う』です。さまざまな家庭や子どもたちに寄り添うためには病院のみならず地域での取り組みも重要です。草の根の活動ですが、この受賞を励みに未来を担う子どもたちのために活動を続けていきたいと思ひます。

特定非営利活動法人 チームふくしま

福島県福島市 代表者:半田 真仁

活動開始:2011年5月 スタッフ:非常勤10名 常勤4名
〒960-8055 福島県福島市野田町6丁目7-8 B103
TEL.024-563-7472



未来ある子どもたちのために、ひまわりを通じて福島と全国を結ぶ「福島ひまわり里親プロジェクト」を実施しています。

ひまわりの種を購入して育ててもらう「里親」を全国で募集し、採取した種を福島県に送り返してもらい、県内で花を咲かせる「福島ひまわり里親プロジェクト」。そして、各地区の代表者がプロジェクトにまつわる物語を披露する「ひまわり甲子園」などを通じて、福島と全国の絆は着実に育まれています。大勢の「里親」から贈られたひまわりの種は復興のシンボルとして、ここ福島の地で毎年、希望の花を咲かせています。

受賞の言葉

約25万人、1,500団体の教育機関の里親の皆さまにご参加いただき、「ひまわり」がつなぐ全国と福島の絆は、震災を「忘れない」風化対策につながるだけでなく、確実に子どもたちの思いやりの心を育むものだと実感しています。今回の受賞を更なる活動の励みに、今後も未来の子どもたちへ伝承・伝達をしていきます。

童楽寺ホーム

和歌山県伊都郡 代表者:安武 隆信^{りゅうしん}

活動開始:2008年4月 スタッフ:6名
〒640-1481 和歌山県伊都郡かつらぎ町新城533-1
TEL.0736-26-0855



**限界集落の兆しが見える地域で、
里親プログラムを中心とした「現代版寺子屋」活動を行っています。**

過疎化が進む集落の活気を取り戻すため、地域の人たちやボランティアの協力を得ながら、「現代版寺子屋」としてファミリーホームを開設・運営しています。和歌山県かつらぎ町は西日本で初めて山村留学を行った場所であり、地域全体で子どもたちを見守り育てる懐の深い土壤が育まれているのだと思います。ここでは、預かっている子どもたちも地区の子どもたちも一緒になって、地域の行事や子ども会活動を楽しんでいます。

受賞の言葉

現代版寺子屋をめざして、地域とともに歩んだ10年目。その節目に受賞させていただいたこと、応援いただきました方々に御礼を申し上げます。これからも、温かい人情があふれる環境の中で、子どもたちと地域がお互いに支え合えるような活動を細く長く続けていきたいです。

特定非営利活動法人 なかのドリーム

東京都中野区 代表者:高田 功二

活動開始:2015年8月「おでんくらぶ」開所
スタッフ:おでんくらぶ23名(事業全体33名) 2018年1月現在
〒164-0012 東京都中野区本町6-36-5-102
TEL.03-6454-1230



**重症心身障がい児の通所事業「おでんくらぶ」や
訪問介護事業「なべ」を運営。幅広く障がい児者支援を実施。**

「おでんくらぶ」は、重症心身障がい児の親が主体となって立ち上げた1歳～18歳までの通所事業。看護師が常駐するなど医療的ケアにも力を入れ、保育園や学童保育では受け入れが難しい重度の障がい児や、学校に通えない子どもたちの預かりにも対応しています。こうした活動はモデル事業として区内外から注目を集め、行政からの問合せや見学希望なども多く寄せられています。

受賞の言葉

このたびはこのような賞をいただき、深く御礼申し上げます。重い障がいを抱える子どもとその家族の現状は厳しく、地域で支える仕組みが必要です。私たち「なかのドリーム」は今回の受賞を励みとして、当事者、医療福祉関係者などと連携しながら、ニーズにあった活動を今後も継続していきたいと考えています。

星の会(不登校を考える親の会)

大分県大分市 代表者:加嶋 文哉

活動開始:1994年10月 スタッフ:26名
〒870-1115 大分県大分市ひばりヶ丘5-5-11
TEL.097-511-5831
Mail.toiawase@hoshinokai.net



大分県内5カ所で毎月開催している例会を通じて、不登校の子を持つ親たちを支える活動を行っています。

星の会では、不登校の子どもを持つ親たちの「心を聴く」ことに重点を置いています。「心を聴く」とは溜め込んでいる感情を吐き出してもらい、それを受け止めることであり、アドバイスして解決の方向性を示すアプローチとは一線を画します。活動の性質上、各々の家庭における成果を数値ではかることは難しいのですが、私たちの活動が行政をも巻き込み県内全域にまで広がったことは大きな成果だと考えています。

受賞の言葉

「不登校・ひきこもりの子どもの親を孤立させないことが、子ども支援になる」という「親の会」の取組みを評価していただいたことをとてもうれしく思っています。この受賞は星の会だけではなく、全国で活動をしている「不登校・ひきこもりを考える親の会」の受賞でもあると思います。ありがとうございました。

特定非営利活動法人 レイボーチェ

東京都板橋区 代表者:阿部 伸之介

活動開始:2016年8月 スタッフ:6名
〒174-0071 東京都板橋区常盤台1-39-13
TEL.050-3706-9877



フェアトレードを活用し、子ども食堂への支援と東南アジアの貧困支援を同時に実現しています。

地域の子ども食堂と、社会貢献に取り組みたい飲食店をつなぐお手伝いをしています。飲食店が開発・提供する支援メニュー1食ごとに子ども食堂へ100円寄付されるシンプルな仕組みが好評で、多くの店舗に参加・協力をいただいています。貧困対策としての側面に加えて、多世代が集う子ども食堂は地域を活性化するコミュニティにもなると信じ、この活動を力強く推し進めています。

受賞の言葉

プロジェクトとしての活動期間がまだ短いなかでの受賞は、大変光栄で励みになります。日本を含めたさまざまな問題点を突き詰めると、子どもの未来への不安と地域コミュニティ不全が根本にあります。私たちは「子どもの明るい未来」に対し経済活動を含めた仕組みを持って、より素敵な未来を創造していこうと思います。

飯尾 真貴子

一橋大学大学院 社会学研究科



研究 テーマ

米国トランプ政権下における移民政策の転換と
移民家族・コミュニティへの影響

内容

米国トランプ政権によるDACAプログラム(オバマ政権による非正規移民の若者たちを対象に暫定的な権利を付与する救済プログラム)の廃止決定は、移民コミュニティに大きな衝撃を与え、更なる社会的排除と強制送還政策の激化に対する懸念をもたらしている。国家の政治プロセスによって規定される家族離散やコミュニティの解体といった移民の生の実相に迫ることで、移民規制の強化がもたらす具体的な社会的影響を明らかにしたい。

受賞の 言葉

このたびは、助成対象に選んでいただき深く感謝申し上げます。これからの2年間、一定の見通しを持ちながら研究を続けられることは私にとって大きな心の支えです。今後も、精力的に研究に取り組むことで、その成果を広く社会に還元できるよう努めてまいります。本当にありがとうございました。

石井 裕美

上智大学大学院 総合人間科学研究科



研究 テーマ

乳児を対象とした簡易な気質評価質問紙作成の
試みとその活用について:4カ月健診・6カ月健診における
育児困難スクリーニングを目指して

内容

母親が虐待・育児困難に陥る要因の一つとして、子どもの気質の特徴が挙げられる。また、気質的に「扱いにくい」とされる子どもに対し、母親のストレスが増大しやすいと言われている。こうした親子をスクリーニングするための視点として、気質の特徴を取り上げることは有用と考える。養育者の育児困難感を引き起こす、あるいはその程度を悪化させるリスクの把握を可能にし、適切な介入の方法を考察する。

受賞の 言葉

このたびは助成対象に選んでいただきありがとうございます。次年度以降の研究環境が確保できるのかと不安に感じていたところ、受賞のご連絡をいただき、大変ほっとしました。子育て支援の研究を進めながら、自ら支援を得ることの意味も実感する日々です。研究活動を今後多くのご家庭のサポートにつなげていけるよう努力してまいります。

海野 歩未

コペンハーゲン大学 社会科学部心理学科



研究 テーマ

神経多様性という考え方による子どもの能力促進に向けた教育的アプローチ —子どものウェルビーイング、社会性およびインクルーシブ教育への効果—

内容

ADHDや自閉症スペクトラム症など、脳の神経学的違いを持つ子どもの多くが、特定の分野で平均より高い能力を持つといわれている。こうした子どもたちの個性や能力を他の子どもたちと共有したり、園や学校での学習活動場面で活用したりすることは、すべての子どもの興味や能力、可能性を伸ばすと考える。特別支援教育において、「神経多様性」という考えに基づいたアプローチをしていきたい。

受賞の 言葉

ワークライフバランスの在り方が注目されているなか、子どもの成長発達と親のキャリア、両方にとってより良い環境をどのように創り上げていくか、私にとって大きなチャレンジです。さまざまな文化に触れるなかで、本助成金を受けながら自分たち家族にとっての子育ての在り方を考え、構築していきたいと思います。

小松 恭子

お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科



研究 テーマ

専門的能力の獲得が女性のキャリア形成に与える影響について —職業別特性に着目して

内容

現在、女性の活躍推進が求められているが、子育て、介護などさまざまな事情を抱える多様な人材をどのように育成・活用・評価するかについて具体的な議論は十分とは言えない。そこで、職業の詳細に着目し、女性の就業実態を明らかにするとともに、専門的能力の獲得が就業行動や賃金等に与える影響について、男性との比較や諸外国との比較を通じて検証することで、日本の女性がその能力を開発し発揮するための効果的な支援策を提言する。

受賞の 言葉

このたびの受賞は大きな励みとなり、深く感謝しています。社会人経験を経て一大決心して研究の世界に飛び込みました。自らの職業経験に基づく問題意識を大切に、実社会で役立つ研究を進めていきたいと思っています。人生100年時代を見据えて、いくつになっても新たな挑戦は可能であることを示せるよう、一層努力します。

齋藤 みほ

立命館大学衣笠総合研究機構



研究 テーマ

昔話の語り聞かせにみる世代間交流と
「語り」によるコミュニケーション

内容

保育園や図書館などで子どもを対象に行われる昔話の「語り聞かせ」。「物語」と「聞き手(子ども)」の関係性を分析したものは多い一方、「語り手(大人)」の存在を含む分析はほとんどみられない。本研究では、「語り手」の存在に注目し、語り聞かせを通じた「語り手」と「聞き手」の交流にこそ、「聞き手」である子どもへ与える影響や語り聞かせの意義があるのではないかと考え、新たな視点から見直すことを目的とする。

受賞の 言葉

出産・育児と自身の研究は、どちらも諦めたくない大切な経験であり、取り組みでした。幸い家族や先生方の支えもあり続けてこられました。育児と研究の両立は簡単ではありませんでした。そうしたなかで今回助成対象に選定いただき、どちらも諦めずに頑張っていたのだと、大変励みになりました。誠にありがとうございます。

白幡 真紀

東北大学大学院 教育学研究科 博士研究員



研究 テーマ

イギリスにおける特別な教育的支援の必要な
(Special Educational Needs)生徒に対する
キャリア支援に関する調査研究

内容

特別な教育的支援が必要な生徒(Special Educational Needs:SEN)は、就労やキャリア形成に困難があることが多い。そのため、SEN生徒に対するより早い段階でのキャリア教育・ガイダンスやスキル習得を含めた包括的な公的支援の役割は大きい。イギリスにおけるSEN生徒に対する職業・キャリア教育を通じた学校内外の移行支援について、その制度的枠組みと課題を明らかにする。

受賞の 言葉

社会人経験を経て大学院に進学し、博士課程在学中に長女を、ポスドク期間中に長男を授かりました。ポストを探しながら研究と子育てに取り組む厳しい状況での今回の受賞は大変大きな励みと希望になりました。さまざまな状況でキャリアを模索する方々の励みにもなればと思います。本当にありがとうございました。

田中 亜以子

関西学院大学 社会学部 非常勤講師



研究 テーマ

「楽しいもの」としての子育ての登場
—1980年代以降の日本社会に着目して

内容

子どもを産み、育てることの価値は、時代とともに大きく変化する。近年の日本社会に着目すると、子育てはしばしば「楽しいもの」として価値づけられる。では、そのことは何を意味するのだろうか。本研究では、子育てが「楽しいもの」として語られるようになっていった歴史的経緯を明らかにすることを通して、現代社会が子育てをめぐる抱える諸問題を新たな視点から考察する。

受賞の 言葉

研究は山に登るのと似ています。子どもをおぶつての登山はあっという間に骨が折れます。軽やかな登山とはほど遠いのです。しかし、荷物を背負い、じりじりと進むことでしか見えてこない風景もあるように思います。今回の受賞により、私は心強い杖をいただきました。杖を頼りに辿りついた先に何があるのか、胸が高鳴ります。

チョウ ブンテイ 張 文婷

新潟大学 現代社会文化研究科



研究 テーマ

東アジアの化粧品コマーシャルの国際比較
—日本・中国・韓国・台湾の女性美の表現分析を通して

内容

日本・中国・韓国・台湾といった東アジア諸国の化粧品テレビコマーシャルの比較分析を通して、社会的・文化的差異から生じる女性の美意識の違いを探る。文化的・社会的背景の違いで、テレビコマーシャルの「美に対する意識」も異なると予想し、東アジア諸国の「美意識」がどのような共通性、独自性を持つのかを明らかにし、それぞれの社会的、文化的背景との関連性を考えていきたい。

受賞の 言葉

このたびは「女性研究者奨励賞」に選んでいただき厚く御礼申し上げます。出産・育児を経て、いったん家庭に入ったものの、研究者の道に対する焦りや不安は日々募るばかりでした。そうしたなかで奨励賞をいただけて、どれだけ励ましになったか言葉になりません。研究成果を出し、専任になることで皆さまに恩返ししていきたいです。

秦 恭子

九州大学大学院 統合新領域学府



研究 テーマ

子どもの中の伝承的/普遍的イメージの研究
—つなぐ実感をはぐくむ国語教育のために—

内容

人間の心の深層には、伝承的/普遍的な「イメージ」が生きていると言われている。民俗学においては「心意伝承」、心理学においては「元型的イメージ」と呼ばれているものである。本研究では、この「イメージ」が他者との間に深い共鳴体験を発生させ、強いつながりを実感させる力を持つと考え、特に子どもの中の「イメージ」を調査することにより、子どもの内に確かなつなぐ実感をはぐくむ国語教育の可能性をひらきたい。

受賞の 言葉

このたびは「スミセイ女性研究者奨励賞」に選んでいただき、心より感謝申し上げます。妊娠初期より体調が思わしくなく、ようやく就いた研究職を辞職、博士論文の執筆も休止。出産を経た現在も育児に追われて研究再開への目処を立てられずにおりました。この受賞を大きな励みとして、ふたたび研究に邁進してまいりたいと思います。

山本 直子

大阪経済法科大学 アジア太平洋研究センター



研究 テーマ

日本における外国人住民の
トランスナショナルな交流が
第二世代の同化過程に与える影響に関する考察

内容

日本に暮らす外国人は1990年以降増加傾向にある。近年では、母国の文化を守りながら、日本で活躍する日本育ちの外国人の若者も少なからず見受けられるようになった。インターネット、テレビ電話、SNSなどによる国境をまたいだ交流が容易になったことで、在日外国人の子どもたちが出身国とのつながりを日常的に意識し、母国語の維持が比較的容易になっている現状に着目し、日本で育った第二世代が日本社会へ及ぼす影響を実証する。

受賞の 言葉

3人の子育てをしながらの研究活動は、経済的にも時間的にも大きな制約を伴い、常に綱渡りをしているような状態です。思うように研究が進まない焦りや、家族にかかる負担から、研究を続けることに対して迷いや罪悪感を持つこともありました。このたびの受賞は、大変大きな励みになりました。心より感謝申し上げます。